



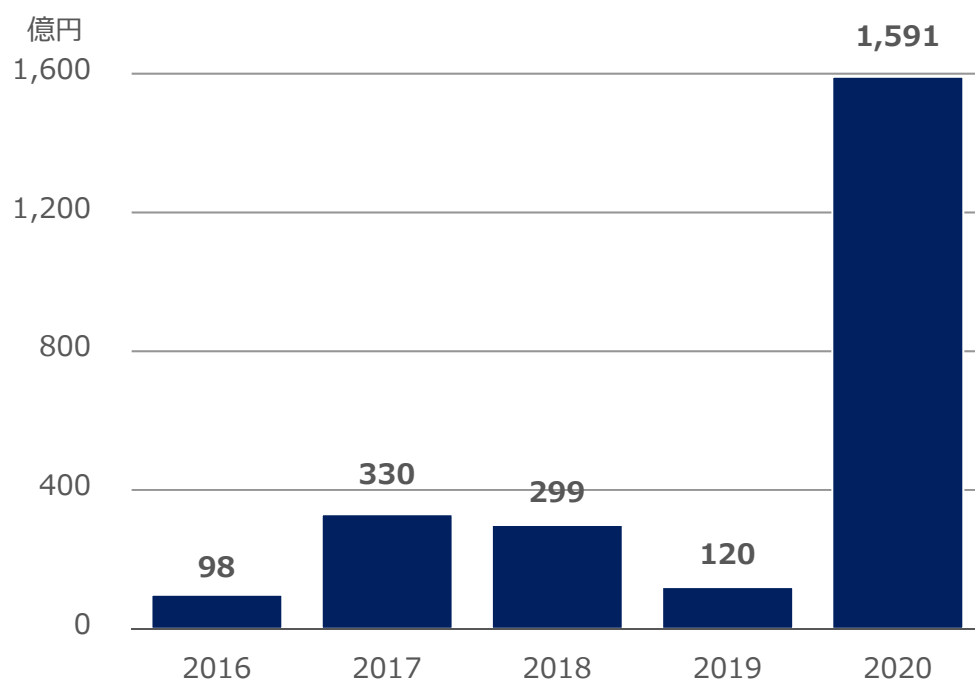
三井海洋開発株式会社  
2020年12月期 第1四半期  
決算補足説明資料

2020年5月12日

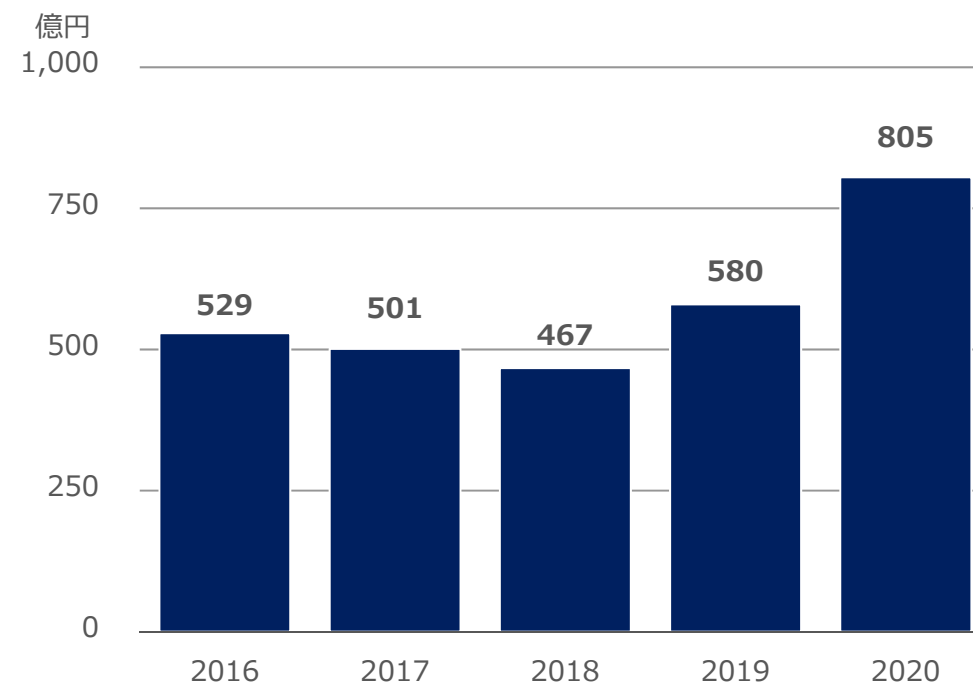


# 2020年12月期 第1四半期：業績の概況

## 受注高



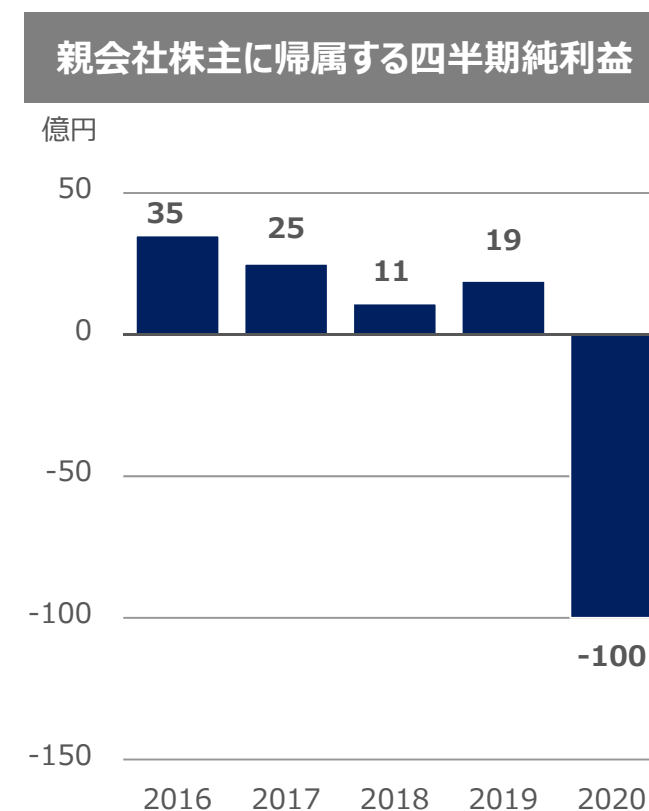
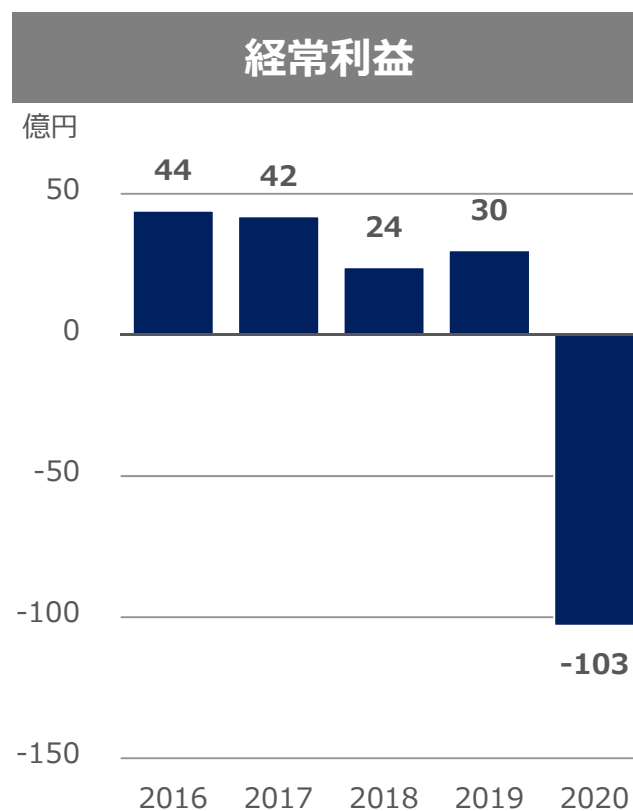
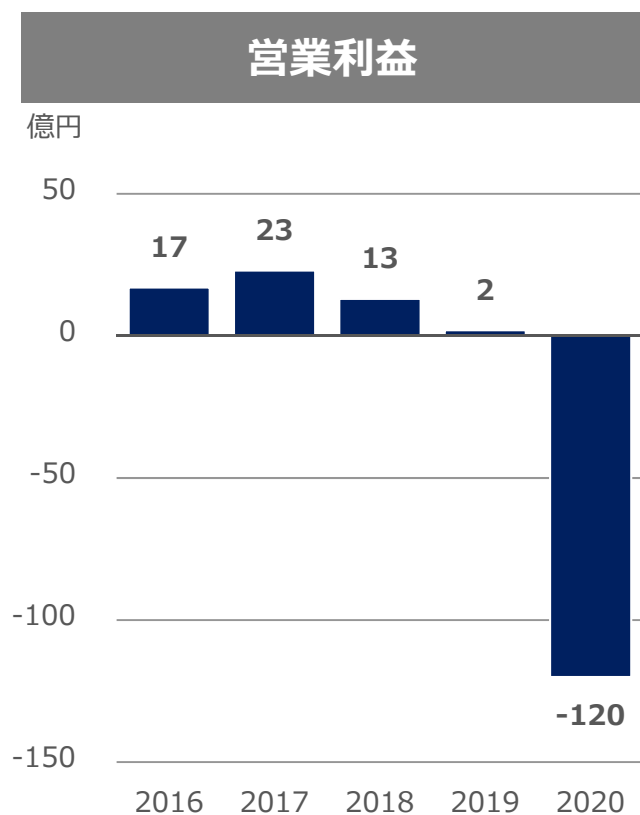
## 売上高



- 受注高は、1,591億円。ウッドサイド社セネガル沖サンゴマル鉦区向けFPSOを受注
- 建造工事プロジェクトの増加により売上高は前年より増加



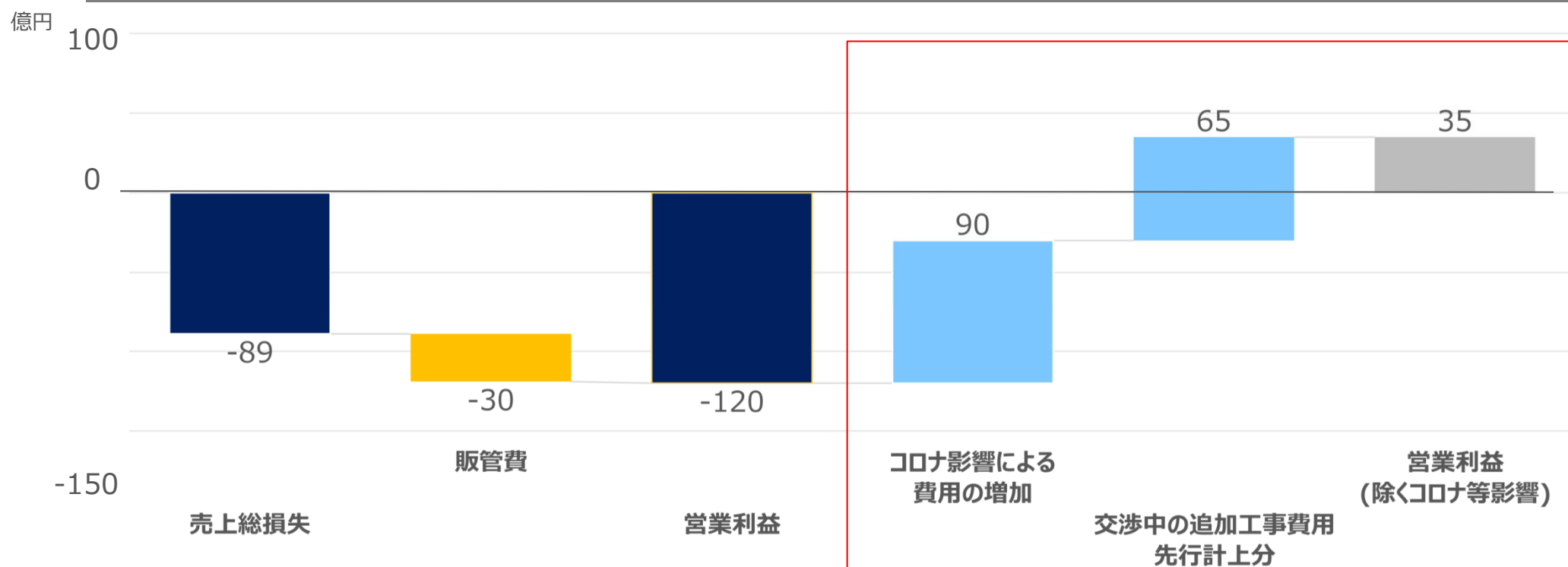
# 2020年12月期 第1四半期：業績の概況



- 新型コロナウイルス感染症拡大により、進行中の建造工事プロジェクトが中断・遅延。また、欧州などからの機器調達にも遅延が発生
- 今年半ばまで現在の状況が継続することを想定した場合の費用の増加を算定し、大半を第1四半期業績に織り込んだこと等により、第1四半期の営業損失は約120億円

# 新型コロナウイルス感染症拡大の影響

新型コロナウイルス感染症により生じた関連費用の影響(第1四半期)



- 新型コロナウイルス感染症拡大により増加すると想定した費用約90億円を見込み、また交渉中の追加工事に関わる約65億円の費用を先行して計上。これら影響を除くと第1四半期の営業利益は通常ベースの約35億円
- チャーター・オペレーションサービスを提供しているFPSOは乗組員の検疫やローテーションの見直しといった対策を講じて操業中

## 2020年12月期：業績予想の修正

単位：億円	前回予想* (A)	今回予想 (B)	増減 B-A	前期実績
売上高	4,000	2,800	△1,200	3,326
営業利益	60	△200	△260	△48
経常利益	170	△90	△260	2
親会社株主に帰属 する当期純利益	120	△100	△220	△182

\* 2020年2月5日公表

- 売上高は、新型コロナウイルス感染症の影響および原油価格の下落による石油会社の最終投資決定（FID）の遅れや、現在建造が進んでいるプロジェクトにおける工事の遅れ等により計画を下回る見通し
- 売上高の減少に伴う利益の減少に加え、建造工事期間が延びることに伴う費用の増加も予想され通期の営業損失200億円を見込む。営業利益の減少により、経常利益および親会社株主に帰属する当期純利益の予想もそれぞれ下方修正